

## Ⅱ 目的

薬学の教育理念は「本学の教育理念を基本として、薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進することにより、国民の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献すること」である。

また、薬学部の教育目標は、「薬に関する基礎及び応用の科学ならびに技術を習得させるとともに、生命の尊重を基本とする豊かな人間性をそなえた薬剤師を養成する。特に、時代の進歩に即応し知的・道徳的能力を展開して薬剤師の果たすべき薬の生産・管理・供給と、国民の健康を守るための保健・医療に関する社会的使命を、生命倫理の下に正しく遂行し得る人材の育成」である。

この教育理念及び教育目標の下に、薬と医療にかかわる総合的な薬学教育を推進し、薬(医薬科学)と人(医療科学)を総合的に理解できる薬剤師を養成する。すなわち、本学の6年制薬学教育の目標である臨床能力に優れた薬剤師、医療人としての薬剤師の養成をベースに、問題解決能力・研究能力を有する「科学者としての薬剤師」を育成する。

また、WHO(世界保健機構)ならびにFIP(国際薬学連合)は、「ファーマシューティカル・ケア」の概念を提唱している。この概念は「患者の福利厚生を中心に置き、より効果的な薬物治療や薬事衛生に患者個人単位から地域社会単位まで幅広く薬剤師が積極的に貢献する」というもので、「地域社会ならびに人類の幸福に貢献する薬剤師」を一つの理想像として描いている。高齢化社会を迎えて、地域医療や在宅医療などで薬剤師の活躍の場は大きく広がりつつある。このような社会の要請に応じて、「地域社会ならびに人類の幸福に貢献する薬剤師」を養成する。

また、これから薬局や病院などで医療に従事する薬剤師には、「基礎及び応用の科学ならびに技術の習得」により、医薬品の開発・製造、有効性(効果)や安全性(副作用)に関する専門的知識を持つことに加えて「豊かな人間性」が必要とされる。すなわち、患者との対話(コミュニケーション)を通して、薬の専門家としての能力を最大限に発揮することが求められる。このような薬剤師の社会的使命を正しく遂行し得る知識と技術と人間性を兼ね備えた薬の専門家である薬剤師を育成する。

上述の薬剤師養成を達成するために、常に社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向しながら、また同時に、組織としての自立性・透明性を高めつつ薬学部教員一人一人が自主性・創造性を発揮することにより、「学生中心の教育」並びに「医療を指向した教育」を推進する。また、21世紀の新しい健康科学の構築を追求し、本学に対する社会の要請と期待に応じていく。